

## 平成 22 年度 会員の集い

- ・ 日 時： 平成22年11月27日(土) 9:30~17:00
- ・ 場 所： 埼玉会館
- ・ 参加者： ボランティアスタッフ・一般会員 74名、研修生 17名、  
理事長・常務理事・理事 4名、県職員 3名、事務局 5名 (合計 103名)

例年、「会員の集い」は「さいたま緑のトラスト運動指導員養成研修」の最終日の午後の「特別講話」からとしていましたが、今年度は、研修日を1日増やし7日間とし、新たに

- ・ 里山の履歴と保全の意義（講師：牧野彰吾 理事）
- ・ 緑のトラスト地における調査の意義と方法（講師：大堀 聡 理事）

の2つの講義を加えました。このため、既に活動中のボランティアスタッフや一般会員の方々にも聴講いただきたく、終日「会員の集い」といたしました。

牧野理事は、県内の地形の歴史的変化や、武蔵野台地の特性や新田開発の歴史などを古文書や絵図を引用して興味深い講義をしてくださいました。

大堀理事は、里山の生物多様性と管理放棄による荒廃、そして単に作業をするのみでなく、まず十分な調査を実施し、計画を立てて作業を行うことの重要性をお話しいただきました。生態系サービス、生物多様性と生態系機能の関係など、難しい概念を解りやすく聴くことができました。

午後は、修了しました研修生への認定証書交付式に続き、「特別講話」です。保全生態学の若手の第一人者である東京大学大学院農学生命科学研究科の西廣淳先生をお招きし、「自然再生の理念と実践」と題する講話を聴講しました。生物多様性を保全する理由、地球上の生物多様性の現状、自然再生実例などをご自身の研究成果や活動経過を紹介しつつご講話をいただき、最後にCOP10で採択された「愛知目標」で締めくくられました。

講義・講話終了後、特別食堂にて立食形式で「交流会」を開催しました。今回は、総勢103名と過去になく多くのご参加をいただき、限られた時間ではありましたが、理事長ほか役員、ボランティアスタッフ・一般会員そして研修生の方々が、互いに交流を深めることができました。



認定証書交付式



特別講話



交流会